20180622_【3134_Hamee】_銘柄分析.xlsx
銘柄分析シート ver. 2

最終更新日	2018/6/22

銘柄コード	3134	上場市場	東証1部	設立年月	2001年12月	株主数	4,397 人	従業員数	平均年齢	平均年収
銘柄名称	Hamee			上場年月	2015年4月	大株主	経営陣:○	259 人	32.1 歳	517 百万円
株価	1,577 円	時価総額	252 億	実績PER	28.8倍	予想PER	25.9倍	自己資本比率	69%	優待	あり

事業内容	スマホやタブレット向けのアクセサリーを企画制作。ロフト等の小売店への商流に加えて、EC販売で伸長。ECは自社開発プラットフォームで運用し、世代別等の属性に応じた振り分けや後方事務をワンストップ化を実現。同プラットフォームを「ネクストエンジン」という商標で各EC事業者向けへ拡販。前者のコマース事業と後者のプラットフォーム事業共にベンチャー気質の高い風土で自由発想の下で企画・開発を小田原本拠に展開。

成長性評価 A

成長シナリオ	(エ)コマース事業において、海外でのアクセサリー拡販の余地あり。 (新)ネクストエンジンの高機能化及び他業態（金融）への新規性ある事業展開。 (認)コマース事業、ネクストエンジンの認知度向上	○
想定CAGR	ネクストエンジンの拡販に基づく先行投資で足元の伸長が鈍化すると思われるものの、プラットフォーム事業は利益率も高く、導入拡販後の成長は大きいものと思われる。想定CAGRは18%程度を見込む。	18%
環境(PEST)	(T)iPhoneの新技術進展による商戦の機運によるコマース事業への影響 (S)人口減少に伴うEコマース事業の更なる定着。プラットフォーム事業へは追い風。 (E)生産性向上による自動化機運向上	○

安定性評価 B

不況耐性	コマース事業はデバイス買い替え需要の減少やアクセサリーへのコスト意識高まりから影響はあり。プラットフォーム事業は、Eコマース市場の拡大はあれど、不況期には流通総額の落ち込みも考慮すると、往って来いという印象。全体ではやや影響はあるものと捉える。	▲
ストック性	コマース事業は一定程度のデバイスの買い替え需要がある事から一定程度の安定的な需要はあるが弱い安定性。プラットフォーム事業はEコマース事業者にとっては一定のスイッチングコストの高まりもありストック性は高い。	○
顧客基盤	コマース事業は最終的には個人向けだが、小売としてロフトが主流。プラットフォームは各Eコマース事業者。直近では静岡銀行のような金融業界へも展開がみられる。特定顧客への依存はない。	○

割安性評価 B

予想PER25.9/CAGR18%→PEGレシオ1.4倍
PER水準は高いものの、PEGレシオはそこまで高くない。今期、来期とCAGRが落ち込む事が想定されるため、目先でPER水準が下振れ可能性はあるが、長期的には有望と判断。

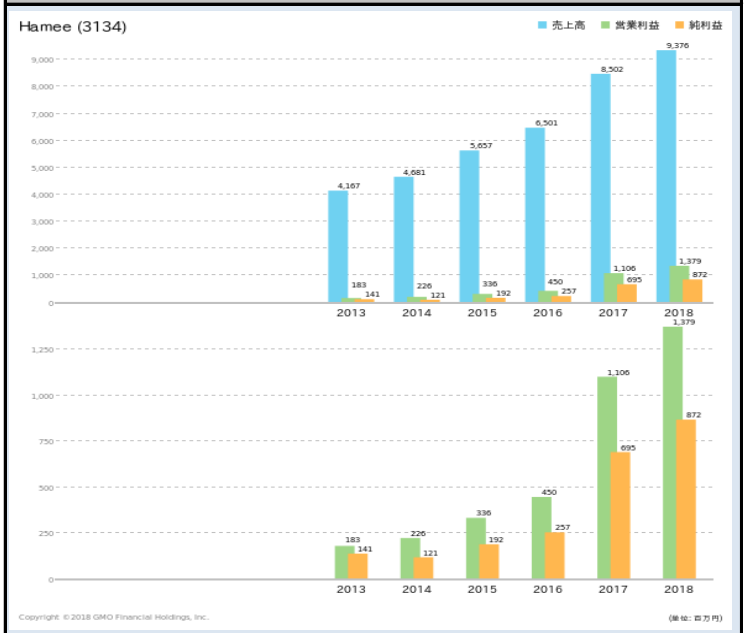
安全性評価 A

営業CFが安定的に伸長しており流動比率等の指標面からも財務面は岩盤で、自己資本比率も高い。成長持続意欲高い中で早期に少額ではあるが配当余裕もあり。

還元性評価 A

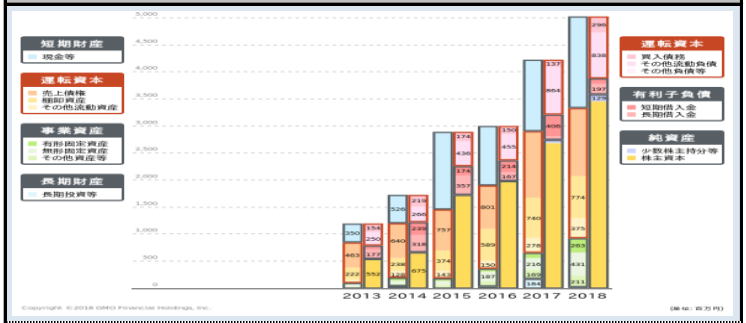
少額でありながらも配当を早期開始しており、株主優待も自社サービス利用できるよう配慮。IR資料の開示姿勢等も丁寧で、電話での対応もとても良い。

PL推移



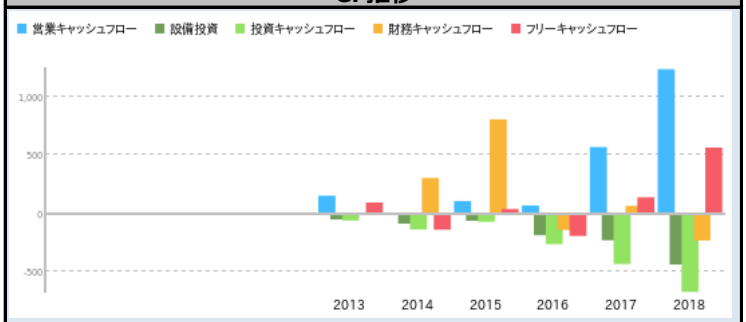
綺麗な増収増益基調を継続している。

BS推移



自己資本比率も厚くなり財務は順調に改善し、また拡大している。

CF推移



上場後は営業CFが伸長し、また連れて投資CFが拡大して成長に備えている。

認識すべきリスク	・社長依存度の高さ →人材育成面を今後も注視。 ・iPhone商戦影響を踏まえたアクセサリー需要の変化 →会社も保守的に計画策定しており、これをベースとみる。 ・ネクストエンジンの競合製品や品質問題のリスク →自社活用のノウハウ還流で一定程度強みを認識。品質問題はリスク受容

組織力評価 A

小田原という地に拘りを持ち、各事業のベンチャー気質を備えた環境下で企画・開発を手掛けている。従業員が自由な風土で活躍している印象（但しまだ接点がないので今後理解を深めたい）。IR対応は優秀で電話対応も的確な対応が出来る。人材育成にも注力しており、比較的優先度が高く有報の対処の欄にも言及がある。

特記事項

株主総会は小田原城内の神社会館で実施

想定EPS		将来評価PER		目標株価
100円	×	30.0倍	=	3,000円
22.4期			上昇余地	90%